

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年0月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和6年度終了時点(令和7年3月31日時点)の中心市街地の概況

富山市中心市街地活性化基本計画では、目指す中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定している。

その都市像の実現を目指して、「公共交通・都市空間」、「商業・賑わい」、「暮らし」の観点に基づき、「公共交通ネットワークの活用と良質な都市空間の形成による回遊性の高い中心市街地の形成」、「まちなかの既存ストックを活用した創業・起業・チャレンジが生まれる中心市街地の形成」、「すべての世代がそれぞれのライフステージに応じて、幸せに暮らせる中心市街地の形成」の3つの方針のもと、それぞれに目標を定め、各種事業に取り組んでいる。

「公共交通・都市空間」の観点では、令和2年3月に富山駅路面電車南北接続事業が完成したことにより、富山駅で南北に分断されていた路面電車が接続し、乗り換えをすることなく市街地南北の移動が可能になったことや、令和5年7月に富山駅の北側にオーバード・ホール/中ホールが開館するなど魅力的な都市空間が創出された。

「商業・賑わい」の観点では、富山市新規出店サポート事業による出店の促進や、全日本チンドンコンクール、トランジットモールといったイベントが開催されるなど中心市街地の賑わいを創出した。

「暮らし」の観点では、平成19年度から中心市街地の居住人口の社会増加が続いている。生活利便施設や交通網の整備などにより質の高い居住環境が整ってきていることやまちなか居住推進事業による支援などによりまちなかの居住ニーズが高まり、今後も再開発事業や民間資本による分譲マンションの建設が続くなど好循環が生まれている。

令和6年度は、「市内電車一日平均乗車人数」が第1期計画期間の平成19年度以降で最多となったほか、目標指標では、すべて基準値を上回る結果となった。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度6月末日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	21,711	21,641	21,619	21,447		
人口増減数	▲175	▲70	▲22	▲172		
自然増減数	▲235	▲194	▲223	▲280		
社会増減数	60	124	201	108		
転入者数	1,272	1,427	1,379	1,435		

(2) 地価

(単位：円/㎡)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
中心市街地 平均	161,938	162,133	164,157	167,090		

2. 令和6年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

富山市では、中心市街地の都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」と設定し、その実現のため「公共交通・都市空間」「商業・賑わい」「暮らし」の3つの観点により計画に位置付けた各種事業を推進され、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

本計画の4つの目標指標のうち、「市内電車一日平均乗車人数」は、目標値には達していないものの、コロナ禍前の水準まで回復し、平成19年に第1期基本計画の認定を受けて以降、最多の乗車人数となった。これは、富山駅路面電車接続による利便性向上や賑わい拠点となる都市空間整備や集客施設整備など、これまでの取組の成果が現れているものと考えられる。

そのほかの目標指標についても、「中心市街地の健康な高齢者の割合」において後期高齢者は昨年度に引き続き目標値を超え、前期高齢者も基準値を維持したほか、「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)」及び「中心市街地の居住人口の社会増加」についても目標値を超えており、本計画は概ね順調に推移しているものと評価している。

当協議会としては、計画に位置付けられた各種事業を官民が連携して着実に実施していくことが重要であると考えており、計画期間後半となる令和7年度においても、目標指標の達成状況を注視しながら助言や提案等を行うなど、計画に掲げられた目標を達成できるよう中心市街地のさらなる活性化に向けて共に取り組んでいきたい。

また、「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ、笑顔あふれる活力あるまち」の実現に向けて基本計画を推進し、中心市街地だけにとどまらず、市全体が活性化することを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※1	目標達成に関する見通し※2	
						前回の見通し	今回の見通し
①来街者が回遊する魅力的な都市空間の創出	①市内電車一日平均乗車人数	20,429 人/日 (R 元)	21,500 人/日 (R8)	21,166 人/日	B	A	A
② 商業・賑わいの再生による活力ある歩きたくなるまち	②中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量(日曜日)	51,577 人 (R 元)	53,000 人 (R8)	57,476 人	A	A	A
③多世代が集い、良質な暮らしを享受できるまち	③-1 中心市街地の居住人口の社会増	113 人増/年 (H17～ R 元)	113 人増/年 (R3～ R8)	144 人増/年 (R3～ R6)	A	A	A
	③-2 中心市街地の健康な高齢者の割合 【前期高齢者:65～74歳】 【後期高齢者:75歳以上】 (65歳以上の高齢者で、介護保険の要支援・要介護認定を受けていない人の割合)	前期高齢者: 95.9% 後期高齢者: 63.7% (R 元)	前期高齢者: 96.3%以上 後期高齢者: 63.7%以上 (R8)	前期高齢者: 95.9% 後期高齢者: 65.0%	B	A	A

< 基準値からの改善状況（※1） >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「< 基準値からの改善状況（※1） >」、< 目標達成に関する見通しの分類（※2） >ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「市内電車一日平均乗車人数」は、21,166人となり、目標値の21,500人には達しなかったものの、基準値である令和元年度の20,429人を737人（約3.6%）上回った。

これは、新型コロナウイルスの収束に伴い、人との接触の少ない移動手段を選択していた利用者が、市内電車に戻ってきたことにより、路面電車南北接続による利便性向上や賑わい拠点の整備などの成果が、目に見える形で現れてきたものと考えられる。

今後、富山駅周辺地区の官民連携組織である（一社）トヤマチミライによる賑わい創出事業や、路面電車南北接続開業5周年記念して実施する、お得に公共交通を利用できるデジタルチケットの発行やまちなかでイベントを開催する「ヒト・マチ・MaaS 賑わい創出事業」、ニューヨーク・タイムズの「2025年に行くべき52か所」に富山市が選ばれたことによる観光客の増加などにより、市内電車の乗車人数は引き続き増加すると見込まれる。

「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量」は、57,476人となり、前年度との比較では10,948人（約16%）減少したものの、目標値を5,899人（約11.4%）上回った。

これは、（一社）トヤマチミライによるイベントなどの取組や、オーバードホール（大・中ホール）やブルーパール広場でのイベント開催により、富山駅周辺の歩行者通行量が増加したことなどが要因であると考えられる。

なお、前年度との比較で減少となった主な要因は、調査日4日のうち2日が悪天候であったためであり、減少は一時的なものと考えられる。

今後、ブルーパールと富岩運河環水公園の結節部に位置する富山市親水広場の再整備の完了や、中心商業地区におけるトランジットモールなどのイベント実施、富山市新規出店サポート事業による出店の促進により、目標値を上回る歩行者通行量が維持されると見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増」は、令和5年度から令和6年度にかけて108人の増加となった。現計画期間の令和3年度から令和6年度までの平均値は年144人増となり、目標を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」における、住宅取得支援や家賃助成などの効果が現れているほか、これまでの中心市街地活性化の取組により、質の高い居住環境が整ってきたことで、まちなか居住のニーズが高まっていることが要因だと考えられる。

この居住ニーズの高まりを受けて、今後も再開発事業や民間による分譲マンションの建設が予定されていることから、今後も居住人口の社会増は継続すると見込まれる。

「中心市街地の健康な高齢者の割合」は、前期高齢者においては95.9%と、基準値と同じ値となり、目標値を0.4ポイント下回った。

また、後期高齢者においては、65.0%となり、基準値及び目標値を1.3ポイント上回った。

これは、「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援の効果が現れたものと考えられる。

また、高齢者の外出機会を創出することで健康寿命を延ばす、「おでかけ定期券事業」や「歩くライフスタイル推進事業」なども、高齢者の健康づくりに寄与しているものと考えられる。

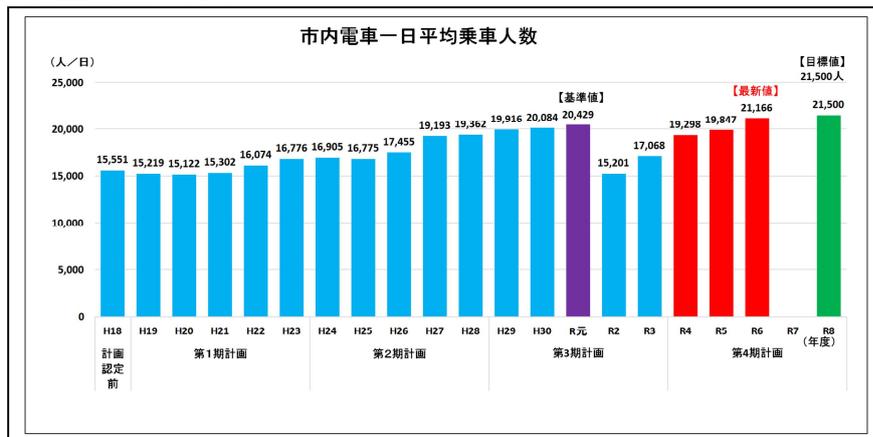
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市内電車一日平均乗車人数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 79～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	20,429 人/日 (基準年値)
R4	19,298 人/日
R5	19,847 人/日
R6	21,166 人/日
R7	
R8	21,500 人/日 (目標値)

※調査方法：実測値による平均人数

※調査月：通年

※調査主体：(R元年度まで) 富山地方鉄道株式会社及び富山ライトレール株式会社
(R2年度以降) 富山地方鉄道株式会社

※調査対象：市内電車

〈分析内容〉

令和6年度の市内電車一日平均乗車人数は21,166人となり、目標値の21,500人には達しなかったものの、基準値である令和元年度の20,429人を737人(約3.6%)上回った。これは、新型コロナウイルスの収束に伴い、人との接触の少ない移動手段を選択していた利用者が、市内電車に戻ってきたことによるものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. グールバール等再整備事業(富山市)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためグールバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(富山市中心市街地地区(第4期)))(国土交通省)(令和4年度～令和7年度) 都市構造再編集中支援事業(富山市中心市街地地区(第4期))(国土交通省)(令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】170人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の歩行者通行量の最新値(令和6年度)は平日2,988人/日、休日2,695人/日であり、基準年度である令和元年度の実績と比べ平日2,836人/日、休日

	<p>45人/日減少した。このことから、市内電車の利用者は196人/日減少しているの見込まれる。</p> <p>平日の歩行者通行量が基準値に届いていないが、令和5年度に比べると平日の歩行者通行量は回復傾向にある。また、休日の歩行者通行量の減少は悪天候による一時的なものと思われる。</p>
事業の今後について	<p>令和6年度では、ブルーパールの一部エリアについて再整備が完了し、イベント等の社会実験を3件行った。引き続き、親水広場の再整備を進め、利活用の方策検討のための社会実験に取り組むことで、エリアの魅力向上につながり、事業完了後には、市内電車一日平均乗車人数が170人/日増加すると見込まれる。</p>

②. 中規模ホール整備官民連携事業（富山市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	PFI手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】15人/日 増</p> <p>令和5年7月1日開館し、令和6年度の年間来場者数は12,075人であった。このことから、市内電車の利用者は4人/日増加している見込まれる。</p>
事業の今後について	引き続き、オーバード・ホール/中ホールを運営し、催事が開催されることで、まちなかへの来街者が増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

③. 交通空間賑わい実証事業（富山市/富山トランジットモール実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～令和8年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】22人/日 増</p> <p>調査地点である「市民プラザ前」の歩行者通行量の最新値（令和6年度）は平日2,243人/日、休日1,707人/日と基準年度である令和元年度と比べ平日400人/日増加、休日934人/日減少した。このことから、市内電車の利用者は2人/日減少している見込まれる。</p> <p>事業目標値を満たせてはいないが、交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、大手モール周辺の賑わいが図られており、令和5</p>

	年度からは回復傾向にある。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで、市内電車を利用した来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

④. 富山市新規出店サポート事業（富山市）

事業実施期間	平成21年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】41人/日 増 令和6年度は3件の新規出店に対して支援したことにより、市内電車利用者数は20人/日増加したものと見込まれる。
事業の今後について	支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図る。

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】83人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合へ移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受け、施設建築物工事の着工に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者が増加することにより、市内電車の利用者数が83人/日増加すると見込まれる。

⑥. おでかけ定期券事業（富山市）

事業実施期間	平成16年度～令和8年度【実施中】
事業概要	市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1乗車100円で利用できるICカードを発行する事業。
国の支援措置名	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【事業目標値】117人/日 増</p> <p>令和6年度のおでかけ定期券一日平均利用者数は、2,024人と基準年度である令和元年実績2,758人から734人減少した。このうち、おでかけ定期券での路面電車利用割合は39%であることから、市内電車一日平均乗車人数は573人/日減少したと見込まれる。</p> <p>令和5年度実績と比べると19人/日減少となった。市内電車の利用者数は増えているが、おでかけ定期券の利用者数や申込者数が減少したと思われる。</p>
事業の今後について	<p>おでかけ定期券の広報活動や、おでかけ定期券の利用による優待サービスの周知を工夫し、申し込みや利用の促進を図ることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

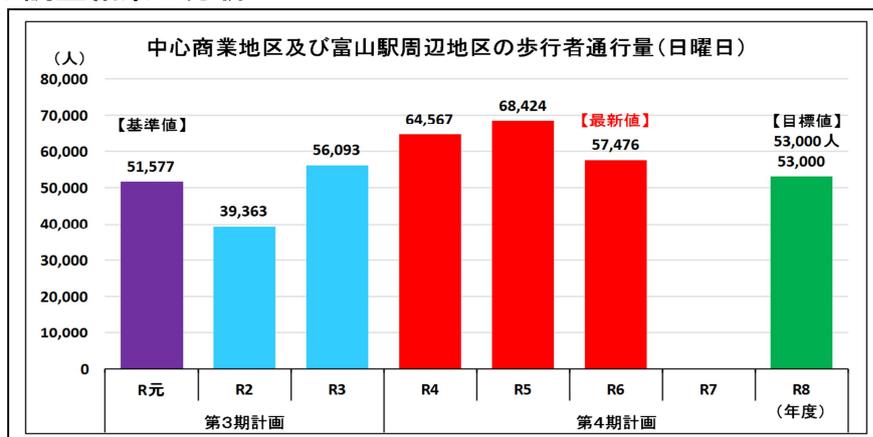
市内電車一日平均乗車人数の増加に向けた各事業については、概ね順調に進捗している。

一部の事業については令和5年度に比べ数値が下がっているが、一時的な減少であると考えられるため、ブルーバール等再整備事業における親水広場の整備やイベントの開催、おでかけ定期券事業などによる来街機会を増やす取組により、目標は達成可能と見込んでいる。

(2) 「中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量（日曜日）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 86～P. 91 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	51,577 人/日 (基準年値)
R4	64,567 人/日
R5	68,424 人/日
R6	57,476 人/日
R7	
R8	53,000 人/日 (目標値)

※調査方法：富山市歩行者通行量調査

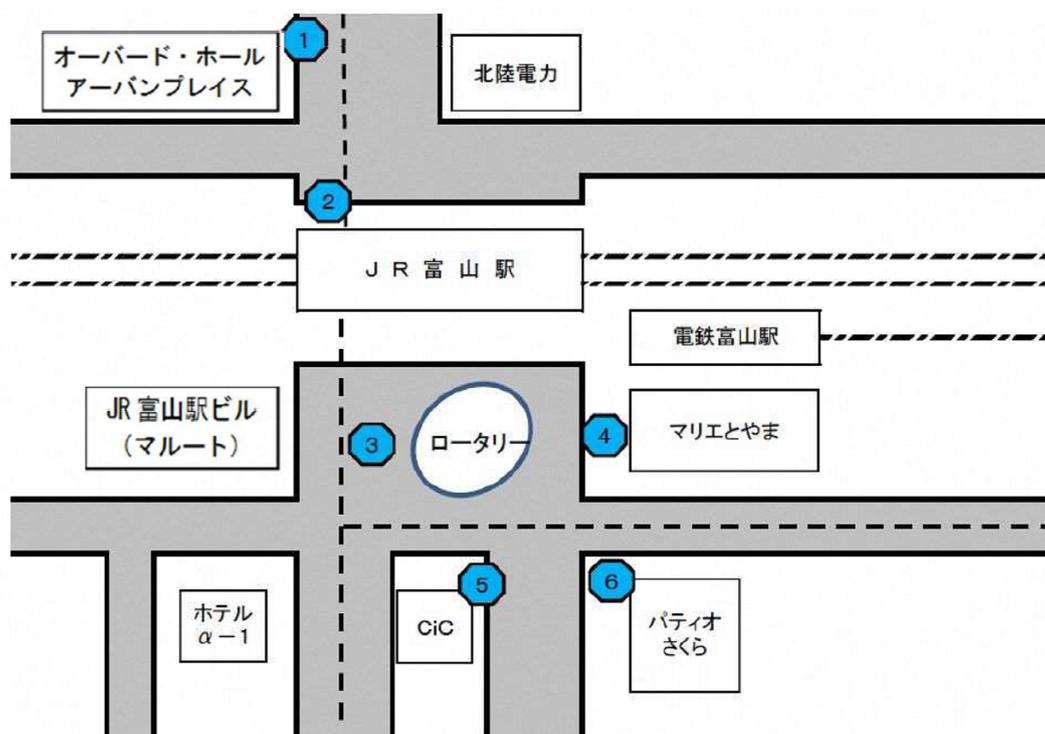
(富山駅周辺地区6箇所、中心商業地区5箇所、11時間連続調査)

※調査月：令和6年5月、8月、11月、令和7年3月の日曜日(各月1日間)

※調査主体：富山市

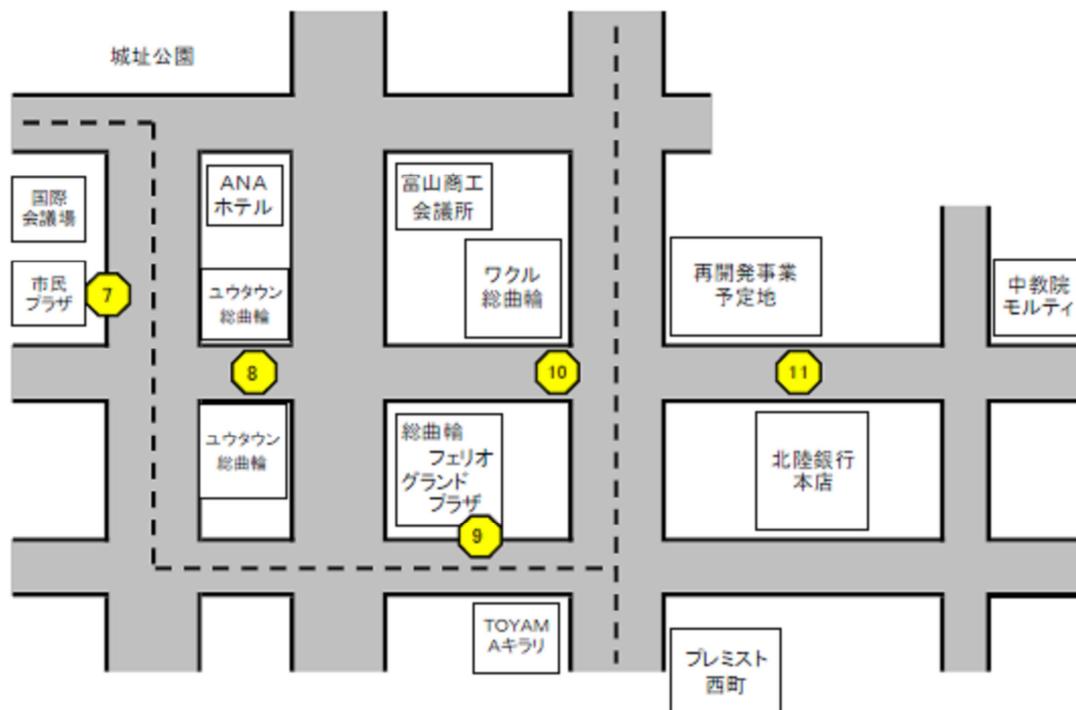
※調査対象：歩行者、自転車

調査地点<富山駅周辺地区(6箇所)>



調査箇所 ①オーバード・ホール前 ②JR富山駅北口 ③富山駅南口ロータリー西側
④マリエとやま西側 ⑤CiCビル東側 ⑥パティオさくら前

調査地点<中心商業地区（5箇所）>



調査箇所 ⑦市民プラザ前（東西歩道前） ⑧ユウタウン総曲輪駐車場入口前
 ⑨インフェイズ前 ⑩旧富山西武南側 ⑪北陸銀行本店北側

(単位：人)

	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
オーバード・ホール前	3,342	2,442	3,143	2,695		
JR富山駅北口	6,855	6,686	7,611	6,289		
富山駅南口ロータリー西側	6,418	19,977	21,361	16,852		
マリエとやま西側	10,549	9,497	10,504	8,629		
CiCビル東側	3,675	4,151	4,454	3,538		
パティオさくら前	3,019	2,823	2,831	2,085		
市民プラザ前	3,905	2,311	2,287	1,707		
ユウタウン総曲輪駐車場入口前	6,487	5,849	5,617	5,568		
インフェイズ前	3,889	3,804	3,770	2,647		

旧富山西武南側	5,331	4,707	4,560	5,002		
北陸銀行本店北側	2,623	2,322	2,288	2,466		

※年4回調査の平均値を記載。

〈分析内容〉

令和6年度の中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量は57,476人となり、前年度との比較では10,948人（約16%）減少したものの、目標値を4,476人（約8.4%）上回った。前年度との比較で減少となった主な要因は、調査日4日のうち2日が悪天候であったためであり、減少は一時的なものと考えられる。

今後、ブルーバールと富岩運河環水公園の結節部に位置する富山市親水広場の再整備の完了や中心商業地区におけるトランジットモールなどのイベント実施、富山市新規出店サポート事業による出店の促進により、歩行者通行量が目標値を上回ると見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ブールバール等再整備事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	路面電車の南北接続を契機として、富山駅北の賑わいを創出するためブルーバールの再整備やイベント等の社会実験を実施する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,530人/日 増 調査地点である「オーバード・ホール前」の最新値は2,695人と基準年度である令和元年度の実績値である2,740人から45人減少した。 歩行者通行量の減少は悪天候による一時的なものであり、ブルーバールの再整備事業や社会実験も含めたイベントの開催を継続することで、今後も歩行者通行量が増加するものと思われる。
事業の今後について	引き続き、親水広場の再整備を進め、社会実験も含めたイベントにも取り組み、ブルーバールの賑わいを創出していくことで、事業完了までには歩行者通行量が2,530人/日増加すると見込まれる。

②. 中規模ホール整備官民連携事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成29年度～ 【実施中】
--------	---------------

事業概要	PFI手法を用いて、富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）北側に中規模ホールを整備し、維持管理を行う事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】770人/日 増 令和5年7月1日開館し、令和6年度の年間来場者数（日曜日）は3,915人であった。このことから、歩行者通行量は979人/日増加していると見込まれる。
事業の今後について	引き続き、中ホールを運営することで催事が開催され、まちなかへの来街者が増えることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。

③. 交通空間賑わい実証事業【再掲】（富山市/富山トランジットモール実行委員会）

事業実施期間	平成28年度～令和8年度【実施中】
事業概要	富山城址公園が隣接し、沿道にコンベンション施設や複合型商業施設等が並び、路面電車が走行する大手モールをイベントに合わせてトランジットモール化する事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】270人/日 増 調査地点である「市民プラザ前」の最新値は1,707人と基準年度である令和元年度の実績2,641人から934人減少した。 令和6年度は、令和5年度と比べ基準年度である令和元年度の実績からはさらに減少したが、これは、悪天候による一時的な減少である。事業目標値を満たせなかったが、交通空間賑わい実証事業のイベントにおいて、大手モール周辺の賑わいが図られており、中心商業地区でのイベント開催数は増加しているため、事業目標値は達成を見込んでいる。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、大手モール周辺の賑わい及び集客の創出が図られることで来街者も増え、事業目標値の達成も可能と考えられる。

④. 富山市新規出店サポート事業【再掲】（富山市）

事業実施期間	平成21年度～令和8年度【実施中】
事業概要	中心商店街等の空き店舗への出店者に対し、店舗改装費や賃借料等を支援し、市民、来街者のニーズが高く、商店街に不足している業種の出店を促進する事業である。
国の支援措置名	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年度～令和8年度）

及び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】982人/日 増
事業の今後について	この事業においては、5年間で10件の活用を目標としており、昨年度と合わせると目標の13件の活用を行った。引き続き、支援制度を周知し出店を促進することにより、空き店舗の更なる活用を図ることで、事業目標値の達成も可能と考えられる。

⑤. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】（中央通りD北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,520人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合に移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受けており、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、整備される商業施設やアイススケート場の利用者や共同住宅の整備による居住者が増加することにより、2,520人/日の歩行者通行量の増加が見込まれる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

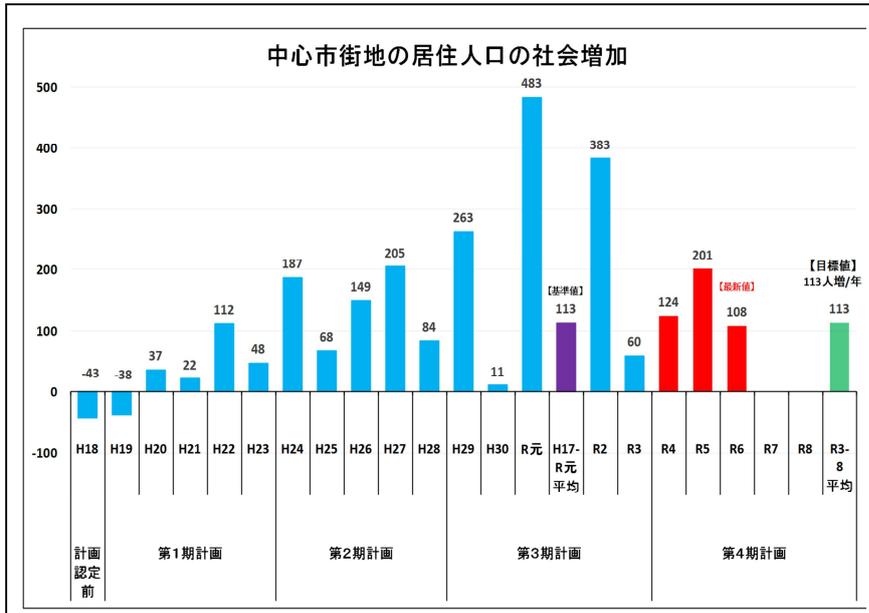
歩行者通行量の調査において、調査時に悪天候であったことから、数値が一時的に減少しているが、中心商業地区及び富山駅周辺地区の歩行者通行量の増加に向けた各事業については、おおむね順調に進捗している。

新規出店サポート事業による新規店舗の出店促進や中央通りD北地区市街地再開発事業による集客施設の完成など引き続き魅力あるまちづくりに努めることで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ①「中心市街地の居住人口の社会増」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 92～P. 93 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H17-R元	113 人増/年 (基準年値)
R4	124 人増/年
R5	201 人増/年
R6	108 人増/年
R7	
R3-8	113 人増/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データに基づく

※調査月：毎年7月～翌年6月

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地の居住者

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増は、令和5年度から令和6年度にかけて108人の増加となった。現計画期間の令和3年度から令和6年度までの平均値は年144人増となり、目標を上回っている。

これは、「まちなか居住推進事業」における、住宅取得支援や家賃助成などの効果が現れているほか、これまでの中心市街地活性化の取組により、質の高い居住環境が整ってきたことで、まちなか居住のニーズが高まっていることが要因だと考えられる。

この居住ニーズの高まりを受けて、今後も再開発事業や民間による分譲マンションの建設が予定されていることから、今後も居住人口の社会増加は継続すると見込まれる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中央通りD北地区第一種市街地再開発事業【再掲】(中央通りD北地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成30年度～令和8年度【実施中】
事業概要	スポーツ交流施設、商業施設、業務施設、住宅施設等の複合施設を整備する市街地再開発事業。

国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】434人/日 増 【最新値】— 令和5年度に地区内の解体工事着工
事業の今後について	令和3年3月に本組合へ移行し、令和5年2月に権利変換計画の認可を受け、施設建築物工事に向け事業が進捗している。事業完了後は、約220戸の共同住宅が整備されることにより、中心市街地の居住人口が434人増加すると見込まれる。

②. まちなか居住推進事業（富山市）

事業実施期間	平成17年度～ 【実施中】
事業概要	快適なまちなかにふさわしい多様な住まいの建設及び供給する市民・事業者に対して支援する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】739人 増（75件/年の支援） 【最新値】234人 増 令和6年度の住宅取得支援（共同住宅を除く）の件数は、40件と、基準としている平成28年度から令和2年度実績の年平均である75件を35件下回った。
事業の今後について	引き続き、まちなか居住を希望する方に住宅の取得支援を行い、まちなか居住を推進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

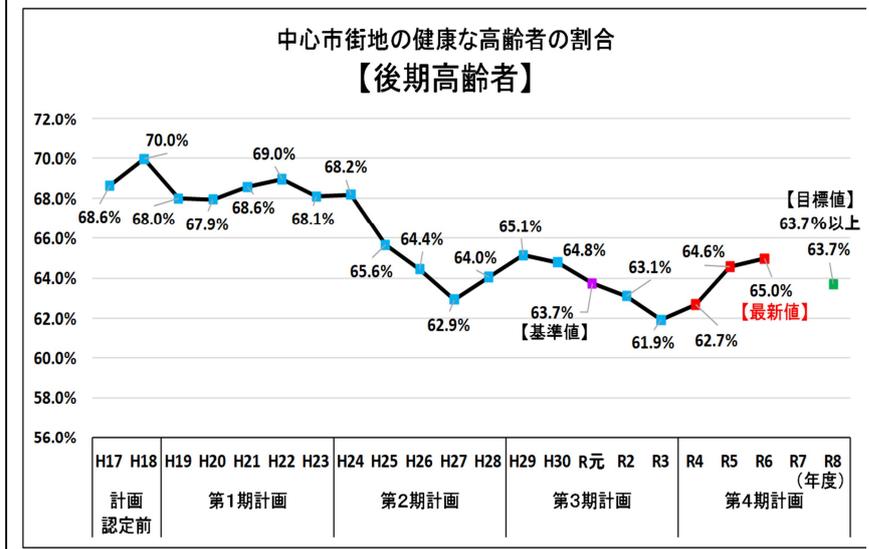
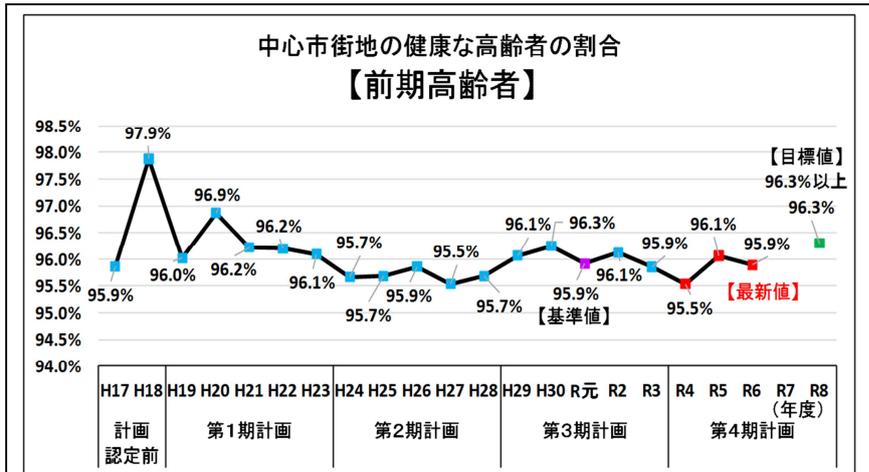
「まちなか居住推進事業」による支援が、目標の達成に寄与している。

今後も「中央通りD北地区第一種市街地再開発事業」や民間事業による分譲マンションの建設が予定されていることから、中心市街地の居住人口の社会増加が見込まれ、引き続き、まちなか居住を支援することで更なる中心市街地の居住人口の社会増加を目指すことで、目標を達成可能と見込んでいる。

(3) ②「中心市街地の健康な高齢者の割合」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 94～P. 95 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R元	前期高齢者 95.9% 後期高齢者 63.7% (基準年値)
R4	前期高齢者 95.5% 後期高齢者 62.7%
R5	前期高齢者 96.1% 後期高齢者 64.6%
R6	前期高齢者 95.9% 後期高齢者 65.0%
R7	
R8	前期高齢者 96.3%以上 後期高齢者 63.7%以上 (目標値)

※調査方法：介護保険の要介護・要支援データ

※調査月：各年6月末時点

※調査主体：富山市

※調査対象：中心市街地に居住している65歳以上の高齢者

〈分析内容〉

令和6年度における中心市街地の健康な高齢者の割合は、前期高齢者においては95.9%と、基準値と同じ値となり、目標値を0.4ポイント下回った。後期高齢者においては、65.0%となり、基準値及び目標値を1.3ポイント上回った。

これは、「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援の効果が現れたものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 地域包括ケア拠点施設運営事業（富山市）

事業実施期間	平成29年度～令和8年度【実施中】
事業概要	乳幼児から高齢者、障害者やその家族が、いつまでも地域で安心して暮らせる健康まちづくりを推進するための行政サービスを一元的・包括的に提供する「まちなか総合ケアセンター」の運営や、総曲輪レガートスクエア内の官民施設が協働事業に取り組み、賑わいや世代間交流・地域間交流の創出を図る事業である。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金（内閣府）（令和4年度～令和8年度） 母子保健衛生費補助金（厚生労働省）（令和4年度～令和8年度） 地域支援事業交付金（介護保険事業）（厚生労働省）（令和4年度） 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（厚生労働省）（令和4年度） 重層的支援体制整備事業交付金（厚生労働省）（令和4年度） 地域生活支援事業補助金（厚生労働省）（令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】診療件数 1,903 件、カレッジ参加人数 4,211 人 【最新年度】診療件数 1,982 件、カレッジ参加人数 3,472 人 令和6年度の診療件数は 1,982 件と基準年度である令和元年度の 1,903 件から 79 件増加した。また、令和6年度のカレッジ参加人数は 3,472 人と基準年度である令和元年度の 4,211 人から 739 人減少した。 カレッジ参加人数については、令和5年度と比べると 637 人増加しており、回復傾向であると考えられる。
事業の今後について	引き続き、まちなか総合ケアセンターにおける様々な取り組みを通して、地域住民が安心して健やかに生活できる健康まちづくりを推進し、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

②. 角川介護予防センター管理運営事業（富山市）

事業実施期間	平成23年度～ 【実施中】
事業概要	超高齢化社会により高齢者人口が増加すると見込まれる中、多機能温泉プールによる水中運動やパワーリハビリテーション等の陸上運動を組み合わせた介護予防プログラムの提供などを行う介護予防の拠点施設である「角川介護予防センター」を運営し、元気な高齢者を増やすため積極的な活用を推進する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】延べ利用者数 87,336 人 【最新年度】延べ利用者数 82,381 人 令和6年度の角川介護予防センターの延べ利用者数は 82,381 人と基準年度である令和元年度の 87,336 人から 4,955 人減少し

	た。 令和5年度と比べると5,097人増加しており、回復傾向であると考えられる。
事業の今後について	引き続き、角川介護予防センターにおける様々な取り組みを周知し利用を促進することで、高齢者の生活の質の向上と健康寿命の延伸を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

③. 歩くライフスタイル推進事業（富山市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	「とほ活」（＝富山で歩く生活）をキャッチコピーに、過度に車に依存したライフスタイルから、公共交通を利用した中心市街地への来街や健康づくりとして歩くなど、「歩くライフスタイル」への転換を促す。また、「歩きたくなるまちづくり」の一環として、まちを楽しみながらより長く快適に歩けるよう官民が連携してベンチを整備する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	デジタル田園都市国家構想交付金（内閣府）（令和5年度～令和8年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度） 都市構造再編集中支援事業（富山市中心市街地地区（第4期））（国土交通省）（令和4年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【基準年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 5,810歩 【最新年度】60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数 6,625歩 令和6年度の60歳以上のとほ活アプリユーザーの月当たり平均歩数は6,625歩と令和5年度の実績に比べ680歩増加し、基準年度である令和元年度の5,810歩から815歩増加している。 これは、歩くライフスタイル普及啓発により、とほ活アプリが周知され、市民の歩く機会が増えたことによるものと思われる。
事業の今後について	引き続き、とほ活アプリを通じて歩くことの意識の醸成を図り、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。

④. シニアライフ講座運営事業（富山市）

事業実施期間	平成8年度～【実施中】
事業概要	60歳以上の市民を対象に、健康と生きがいを高めるため、公民館等を会場に、趣味活動・創造活動・健康活動の各種講座を開催する事業である。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新	【基準年度】シニアライフ講座参加人数 341人

値及び進捗状況	<p>【最新年度】シニアライフ講座参加人数 208 人</p> <p>令和6年度のシニアライフ講座の参加人数は208人と基準年度である令和元年度の341人から133人減少した。</p> <p>令和5年度と比べると、中心市街地から会場の変更があった講座があり5人の減少となった。</p>
事業の今後について	<p>高齢者のニーズに合わせた魅力ある講座を開設し、利用の促進を図り、引き続きシニアライフ講座を行っていくことで、高齢者の健康と生きがいを高め、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。</p>

⑤. おでかけ定期券事業【再掲】(富山市)

事業実施期間	平成16年度～令和8年度【実施中】
事業概要	<p>市内在住の65歳以上の高齢者を対象に、バス・鉄道・路面電車を利用して中心市街地へ出かける際に、1乗車100円で利用できるICカードを発行する事業。</p>
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>【基準年度】延べ利用者数 1,009,470人</p> <p>【最新年度】延べ利用者数 738,637人</p> <p>令和6年度のおでかけ定期利用者数は、738,637人と基準年度である令和元年度の実績1,009,470人から270,833人減少した。</p> <p>令和5年度と比べ9,028人減となった。これは、路線バスの減便や運行ルートの変更などの影響により、バスにおける利用者が約4.5%減少したことによるものである。</p>
事業の今後について	<p>おでかけ定期券の広報活動や、おでかけ定期券の利用による優待サービスの周知を工夫し、申し込みや利用の促進を図ることで、更なる高齢者の外出機会や歩く機会を増やし、中心市街地の健康な高齢者の割合の向上を目指す。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

「角川介護予防センター」での温泉水の効用を活用した水中運動やパワーリハビリテーションなど複合的な介護予防プログラムの提供や、「まちなか総合ケアセンター」における在宅医療の推進など地域包括ケア拠点施設としての総合的な支援、高齢者の外出機会を創出することで健康寿命を延ばす、「おでかけ定期券事業」や「歩くライフスタイル推進事業」など継続的に行うことで、目標達成を見込んでいる。

